

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。〔15番 中村 実君登壇〕

○15番（中村 実君）

おはようございます。創生クラブの中村です。

まず最初に、マリンドリーム能生周辺整備計画について、質問を行います。

糸魚川市の観光拠点の一つである道の駅マリンドリーム能生及び周辺エリアの活性化を図るため、令和3年度に「マリンドリーム能生周辺整備活用等推進ビジョン」を策定し、続いてビジョンを実現可能な事業とするため、令和6年3月に「マリンドリーム能生周辺整備計画」が新たに策定されました。この策定された整備計画を今後どのように計画的に進めていく予定なのか伺います。

- (1) 委託業者の選定方法や、携わった団体の策定方法と、整備計画はどのように進めてきたのか伺います。
- (2) 整備計画では道の駅エリア、小泊まちなみエリア、弁天岩・漁港エリアとエリア分けをし、各エリアごとに将来像や整備計画案が記載されていますが、この3つのエリアが連携することにより、相乗効果はどのようなものがあると考えているのか伺います。
- (3) マリンドリーム能生がある道の駅能生エリアの整備計画区域内には、既存施設として「すぱーく能生」と「B&Gプール」がありますが、周辺の整備計画と併せ、どのように活用していくのか伺います。
- (4) 整備計画において、様々な整備事業の記載がありますが、最優先事項と捉えている事業は何か伺います。
- (5) 事業スケジュールにおいて、短期間で3年、中期で6年、長期で10年となっていますが、中期計画の6年を目途に計画変更ができないのか伺います。

次に、シートゥーサミットの成果と今後について、伺います。

今年で3回目となる「糸魚川・上越・妙高シートゥーサミット」も例年になく天候にも恵まれ、一番よい気候条件の大会となりましたが、当初の予定では、県の関わりについて、3市が一巡する3年間が一区切りとなるのではないかとうわさされていました。

過去には能生浜でのトライアスロンなど、前夜祭から多くの参加者が集まりにぎわっていましたが、現在はシートゥーサミットが年に一度の能生海岸でのにぎわいであり、開催が中止となると糸魚川の海を使ったイベントがなくなってしまいます。今後のシートゥーサミットの動向や、海を使ったイベントの計画について伺います。

- (1) 3市一巡の3回目が終了し、来年度の開催の見込みについて、どのような状況なのか伺います。
- (2) シートゥーサミットの開催により、当市においてもカヤックやサップ等の新しいアクティビティが根づいたと思われそうですが、これらを生かした新しいイベントを開催する計画等はあるのか伺います。
- (3) シートゥーサミットにおいて、毎回、大会前日には「環境シンポジウム」が開催されますが、3市持ち回りにより、今年は妙高市の新井ふれあい会館で開催され、スタート地点の能生海岸とは距離がありましたが、当市への経済効果があったのか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、計画策定における委託業者は、令和 4 年度にプロポーザルにより選定しております。

また、携わった団体は、地元や国・県等の関係者であり、協議会等を計 8 回開催いたし、策定いたしましたものであります。

2 点目につきましては、それぞれ特徴的な 3 つのエリアを一体で計画することにより、多様性のある観光エリアとなり、多くの客層を引きつけ、観光客の増加と満足度の向上につながるものと考えております。

3 点目につきましては、いずれの施設についても現在の利用状況や利用者の声、施設の耐用年数を勘案しながら、道の駅周辺の整備計画と併せた検討が必要であると考えております。

4 点目につきましては、現在、ゴールデンウイークなどの長期休暇時には、マリンドリーム構内への出入りによる国道 8 号の渋滞、また、構内道路や駐車場の混雑緩和が課題となっていることから、自動車等のスムーズな動線確保の整備が最優先事項と考えております。

5 点目につきましては、今回の計画は、市だけでなく、民間事業者や地元など、様々な事業実施主体による複合的な整備であることから、10 年間の整備計画となっておりますが、関係者との調整により計画変更の可能性はあると考えております。

2 番目の 1 点目につきましては、上越 3 市が広域連携したダイナミックな自然等を体感できる大会であり、本市が持つ海、山、里の魅力発信とともに、さらなる広域連携を目指し、来年度以降の開催に向け、関係者と協議を行っております。

2 点目につきましては、このイベントをきっかけに民間団体において、カヤック等、マリンスポーツが体験できる海のイベントが開催されていることから、市といたしましても協力してまいります。

3 点目につきましては、参加者のアンケートでは、宿泊手段として車中泊やキャンプなどをされた方もいましたが、スタート地点である本市のホテル等での宿泊者も、他の市と同等の人数であり、宿泊による飲食や小売店での消費も含め、経済効果はあったものと捉えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15 番（中村 実君）

2 回目の質問をさせていただきます。

このマリンドリーム周辺整備事業計画という、これを基に質問をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、周辺整備計画について伺いますが、市長からも今答弁ありましたけど、プロポーザル方式で決めたということですが、これは何社の企画提案があったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

令和3年度に策定いたしました推進ビジョンも、プロポーザルで選定しております。そのビジョンにつきましては3社から提案をいただきまして、業者を選定しております。令和4年度の整備計画におきましては、2社から提案いただきまして、現在の業者のほうを選定した次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

このプロポーザル方式というのは、企画提案。これ一番大切だというふうに思うんですが、この業者に決定した企画提案というのは、どの辺がよくて決めたのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

プロポーザルの審査は5名でさせていただいたんですが、選定した業者は、前年度推進ビジョン策定を受託した業者でございましたので、特に評価された点は、やはりその事業の趣旨や目的、また条件を十分に理解いただいたものではないかなと思っております。

なお、当方が業務仕様書のほうを出しておりますので、提案書は、どちらかといいますと策定手法の記載が多かったのではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

計画提案を見させていただきましたけど、あまり地域を歩いて提案されたのではないんじゃないかなというふうに思っております。これも中身を見ますと、ほかの国の施設だとか市の施設だとか、そういったところの写真を抜き出して、これほとんどこれに貼り付けてあるだけなんですよ。大体その写真を見ると、今現在のマリンドリームの規模からいくと、当てはまらないぐらい結構大規模な施設の写真が多いんですよ。だから、そういったものをこれに提案してもちょっと、非常に建設していくのは無理ではないかなというふうに思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今回、計画を策定いたしました。この計画は、道の駅マリンドリームにおきまして、今後の道の駅の機能、また、観光拠点としての機能を令和3年度の推進ビジョン策定時から、地域の皆様の意見をいただきながら精査させていただいたものだというふうに思っております。

また、ご質問のとおり、敷地には限度等もありますので、どのように効率的に配置したり整備したりするか、また、必要な機能につきましても、兼ねられるものがないかとか効率にできないかというのを今後、詳細設計するときには注意してまいりたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

他の地域の成功事例を貼り付けて、文字をつけていくぐらいなら、私とすれば市の職員でも十分できる仕事だったのではないかなというふうに感じております。

次に、協議会ですが、検討部会が18名、令和4年から6年まで8回開催されているということです。私も遊漁船組合の関係で2回ほど参加させていただいたんですけど、話ししても向こうの業者の流れで話が進んでいって、あんまり参加者の声ってのは聞かれていないようには思ったんですよ。次のとき、出ても、一般の検討部会の人たちの話をしたことが、資料には載ってこないんですよ。だから、もう少し反映されても、地域の声を聞いてもよかったのではないかなというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

意見が反映されていないという感覚を持たせたのは、私どもの協議会の運営は少しはちょっと反省すべき点もあったのかなというふうに思っております。言い訳に聞こえるかもしれませんが、先ほど前年度のビジョンの策定時に、国や県などを除いた地域の団体、15団体の30名の方々から、自分たちのこの場所について、将来こうしたいとか、あるべきだという意見やアイデアをいただいたものが、ビジョンでございまして。それがベースとなった整備計画案について、検討部会で話し合いをお願いしたのではないかなというふうに思っております。

皆様の要求水準が、前年度よりもすばらしい意見が多かったのかなと思ひまして、その実現性が、なかなか困難なものが多かったものではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

いろいろ捉え方が違うと思うんですけどね。

この中にあります、小泊まちなみエリアの整備計画、これを見ると、景観のすばらしさを生かしたまち歩きによる周遊観光が書かれております。その中に交流人口や空き家の有効活用、にぎわいを生み出すイベントの実施などが記載されていますが、もう既に周遊観光は、数年前から小泊地域づくり協議会でも、小泊ウオーキングというのをもう始めております。来月、10月ですよね、10月には2回開催される予定になっております。これは新潟の旅行会社が企画しまして、20人限定で、能生漁港から弁天岩、そして白山神社へ行きまして、白山トンネルを通り、迷路のような小泊を散策する。その後、また小泊のトンネルを抜けまして、マリンドリームへ行って、買物をさせていただき、その後、小泊の公民館へ立ち寄って、地域づくりの人たちが用意したサザエご飯とメグスのすり身を食べていただき、カニが出てればカニも食べていただければなというふうに計画をしているそうです。これは、1人につき旅行会社から3,000円もらえるそうなんですけど、ほぼこういうものを出せば、ボランティアみたいな形になるのかなというふうに思っております。

このような計画は、もう既に小泊やこういう旅行会社が、もう計画の中にあるものは進めていまずので、ぜひ今後、こういう人たちとタイアップして進めていく必要があると思うんですけど、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

小泊地区は、昔から地域活動をしまして、独自に様々な事業に取り組んでいただいております、元気な地区だというふうに認識しております。

計画書にも記載がございますが、小泊地区のまち歩きにつきましては、市と地元団体が、事業実施主体となっております。滞在時間を長くし、地域にお金を落としてもらうために、タイアップして取り組んでいきたいなというふうに考えております。

また、地元の意見や要望を受け、案内板やフォトスポットの整備にも、今後取り組む必要性があると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

この旅行会社は、新発田市を6時半に出発いたしまして、新潟駅、長岡駅に立ち寄って、小泊へ来るということらしいんです。この会社の集客文句は、東洋のアマルフィ、越後の尾道、糸魚川市能生・小泊ウオーキングを、これ、うたい文句として求人をしたそうです、20人も既に集まっているという話を聞いていますが。やはり業者も一生懸命やっていますんでね、ぜひ市としても、こういうところのノウハウを勉強しながら、ぜひ進めていっていただきたいなというふうに思っております。

整備計画の1ページに、3エリアが連携することにより相乗効果を生み出すと書かれていますが、

市長もそのようなことを申ししていましたが、市の職員が、来月2回あるんで、そういうところに参加といいますかね、一緒について歩いて、ルートを散策して、一度経験してみるということも大事だと思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

情報ありがとうございます。恥ずかしながらご提案のツアーにつきましては、承知しておりませんでした。ご案内のとおり、小泊地内のまち歩きにつきましては、日程の都合をつけまして、視察させていただくかもしれませんので、後日、相談させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひ参加するなり、もしできなければ、後で雰囲気だけでも小泊のほうへ聞いていただければなというふうに思っていますが、この中にも書いてありますが、小泊特有の雰囲気を生かした空き家の活用が書かれているんですよ。

担当課では、この地域の空き家の活用って書いてあるんですが、所帯数と現在の空き家の数は、把握しているのかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

計画策定課の私として、お答えさせていただきます。

少し古いデータとなりますが、令和2年度に市が実施しました空き家実態調査の結果といたしまして、小泊地区は、空き家が19戸ということでございます。その中でも、著しく状態が悪い、特定空家と言われるものが1戸ございました。

また、世帯数ですが、調査時点では185世帯でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

昔に比べると、小泊も半分近くに所帯数もう減ってるんですよ。令和2年だから随分古いデータとなりますが、今の令和6年だと、世帯数が少し減って168世帯、それから空き家が35件というふうに調べてあります。この中でも、もう解体が進んでいるところもありますので、今のこの整備計画も、すぐできるところは計画を進めていかないと、もう空き家がどんどん増えてきまして、小泊自体の魅力がなくなってくると。売り文句もなくなってくるのではないかなというふうに

思うんですが、空き家対策になると企画定住課になるんですかね、その辺は何か考えていますか、この計画の中でですけれども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

周辺整備計画の際にも、策定の際にも企画定住課としても関わらせていただいたと記憶しております。小泊地区におかれましては、地域づくりプランの中で、やはりまち歩き、空き家活用プランというのも入っておりましたので、そういった点、引き続き地域の話合いの中で、今ほども議員おっしゃられた空き家の件数が大分多うございますけれども、私ども空き家バンクの件数としては、まだ登録は1件かと承知しておりますので、どのような形での活用が図られるのかといったところも、地域の皆さんとお話しさせていただければなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

補足して、お答えさせていただきます。

整備計画に空き家の活用を記載させていただいております。空き家の活用は2点示させていただいております。1点目は、空き家の貸出しの仕組みをつくることによりまして、定住の促進を図ると。2点目は、空き家を観光客の休息場や宿泊などに整備しまして、観光利用を図るというその2点について、記載させております。

いずれにしましても、地域の皆様とタイアップして事業推進できるように尽力したいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

まち歩き、年に何回かやるんですけど、小泊地内を散策してるんですけど、ほとんど小泊も高齢化しまして、お年寄りが多いですよ。ただその辺であっても、あんまり物おじしない地区なんです、いろいろと話をしてくれているようなんですよ。この空き家対策を早く進めることによって、ほかの地域の先進事例にもなるんじゃないかと思います。糸魚川市内の、こうやれば空き家対策になるんだよというところを、先進事例になるような対策を頑張っていたらいいと思いますし、先ほど空き家バンクが1件ということで、二、三か月ぐらい前ですかね、1件、私のうちの近くで売れまして、今、海のないところから、県内ですけどね、来られて、DIYを頑張って、日曜日になると直しているといった人たちがいます。こういった人たちにも、やっぱり空き家があるんだということをしっかりPRして、空き家の活用を進めていく。住んでもらうのが一番なんですけどね。今また、私の知り合いのところでも、白馬の人で空き家を活用したいという人も出てきています。あまり知らないんですよ。だから、できれば地域を歩きながら空き家がたくさんあるんでどうで

すか、来て、老後住んでみませんかとか、買って、直しませんかとかという、そういうPRをしていくことも必要だと思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

議員のほうで把握されている空き家の件数と登録件数と大きく違っております。どのような理由なのかというところを、いま一度、検証する必要があるというふうに思っております。先ほど商工観光課長が申しあげましたような整備プランの中での空き家の活用案というのもございますし、実際に小泊地区内でも、民間の方々が民泊の施設として活用しているといった事例もあるというふうにお聞きしております。引き続き、そのまち歩きの状態も聞かせていただきながら、また、釣り客にも非常に人気のあるエリアというふうなところもありますので、空き家バンクへの登録の促進といったところから活用を進めるといった点もできるかと思っておりますので、そういった点も含めまして検討していきたいというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今、釣りのお話も出ましたけど、年間に、ちょっと把握してないんですけどね、2,000人とか3,000人ぐらい小泊へ釣りに来るらしいんですよ。小泊に2軒あった泊まる所も、1軒は、もうおばあちゃんになって辞めてしまいましたよね、中山さん。今、港旅館が素泊まりで何とかやってるといふ、そういう人たちも、来ても泊まる所がないという、そういう人たちのためにもね、もうちょっと情報を流してやれば、もしかしたら買って住んでくれるのかなというふうにお思っております。ぜひ民泊もね、1軒頑張ってます。大変忙しいらしいですよ、予約が取れない民泊だといふ。

次に、弁天岩周辺整備ですが、夏場になると、もう満杯で駐車場、車を止めるとこないというぐらゐの状況ですが、お盆を過ぎると、ぱたっといなくなってしまうと。大変寂しい状況なんですけど、この整備計画の中では、ダイビングやカヌー等、アクティビティ、こっちですね、アクティビティを提供していくという、また、遊漁船やヨットのマリーナの整備というのも書かれているんですが、このマリーナというと相当ハード事業になってくるので、簡単には、市だとか県で対応できるようなものではないと思うんですけど、その辺は、その計画倒れにならないように、すぐできるわけじゃないんでね、進めていく必要があると思うんですけど、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

まず、議員おっしゃるように糸魚川の海岸部の施設は、今ほどおっしゃるように冬期間の利用は、

残念ながら激減してしまいます。この計画書におきましては、道の駅マリンドリーム能生エリアと小泊エリアが連携し、観光客が誘客することによりまして、通年の観光を図っていききたいなというふうに思っております。

また、小泊エリアでのハード整備は、おっしゃるように事業費も多大となります。また、利害関係者も多く、規模も大きくなるため、検討開始期間を10年内と長期に定めさせてもらっておりません。整備が可能なのかどうかについても、検討する計画でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ヨットハーバーやマリナー、これ昔から能生商工会でも大きい図面に書いて貼ってありますけど、おとぎの国ということで計画されて、それも市長もご覧になって見ているわけですけど、できたら大変すばらしいものになるなというふうに、長期計画になってもいいんで、夢を持った計画を進めていただければなというふうに思っております。

次に、3番目のすば一く能生とB&Gプールですが、この二つの施設は、今回のマリンドリーム周遊整備計画のエリア内でありながら、改修や移転等の計画は、この中には書かれていないんですよ。この二つの施設は、この資料の計画の中では、どのような位置づけになっているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

計画上は、二つの施設については、現在、地元の方が多くご利用いただいている施設でございます。つきましては、道の駅エリアとしましては、B&Gプールは来場者へのアクティビティとして、また、すば一く能生につきましては、緊急避難場所、有事の際の緊急避難場所として位置づけられております。通常の営業時と災害時等では施設の機能は違いますが、引き続き活用を図ってまいるのでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今ほどのあれだと、ゲートボール場は、すば一く能生は避難場所という、あそこで避難場所で使えるという、何ですかね、大雨のときとかそういう、地震だと今の鉄骨の状態だと非常に危険だということで避難場所の利用も限られると思うんですけど、プールは、今後あれですよ、学校関係の、小中学校のプール授業ということでの利用は考えていく必要があると思いますし、夏になると、夏休みに入ると長野の子供たちが海水浴に来るんですけど、7月頃というはまだ海がしけるんですよ。そうすると、親御さんはあそのプールで泳がせて帰っていくということなので、あそ

こにはB&Gプールが必要なのかなというふうに思いますが、今現在、屋根にさびがあるということで危険だということで、上の部分だけ撤去されていますよね。あれは、今後どのように整備していくのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

おはようございます。

お答えします。

B&Gプールにつきましては、危険ということで上の屋根を切りました。現在は、その利用状況や経費等を見ながら、当面、今のような開放型プールとして開館をする考えでおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

できればね、これは前から地区の要望とかもあって、市のほうへも話してるんですけど、できれば温水型にしてもらいたいということをお願いしたんですけど、B&Gの元のほうでは何らか問題は無いんですけど、金額的に大変なお金がかかるということで、この問題はクリアできなかったんですけど、できれば全体をね、あれは使うときだけシートをかけて、終わるとあれ剥がしてあるもんだから、海の横なんでさびるのは当然ですよ。あれはしっかりと囲った建物にして、中にさびが、もうさびないようなそういうものに直していただきたいというふうに思っております。

次に、すば一く能生ですが、この施設は、青海、糸魚川、能生のほうから毎日のようにお年寄りが来て、利用されてるんですよ。順番取りも大変だということですが、雨漏りがもうすごくて、何回か直すんですけど、やはりどっかどっかで雨漏りがしている。そろそろ建て直す時期になってくるんじゃないかなというふうに思っております。これは利用者が多いんで、なくするということはできないと思うんですよ。だから、あそこで直すというと大変なお金もかかると思いますんで、その間は使えなくなるんで、場所を変えて建て直したほうがいいと思うんですが、これも前に市長にもお願いをしたこともあるんですけど、市長のほうで何かお考えはないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほどの整備計画の中において、すば一く能生については、その場所をどのように対応すればいいのか、マリンドリーム全体の中において、今一番何を求められているのかというのを調べていく中において、このゲートボールについては、どこでやればいいのかという、やはりこの、大前提の物の考え方をしなくちゃいけないんじゃないかなと思っております。その場で修復していけばいい

のか、また、建て替えればいいのかという状況も含めて検討しなくちゃいけないなと思っております。

ただ、やはり必ずしも、このマリンドリームの中になくてもいい施設ではないかなということは捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

あれは能生町のときに建てた施設でありまして、あれはB&G財団があそこで2つ並べて造りたいということで、あそこに設置された。まだあの頃は、マリンドリーム自体のお客さんも少なかったですし、駐車場には困っていなかったと思うんですね。

私個人の考えですけど、あそこを移設することによって、あそのスペースを駐車場にしたり、違う目的で使ったりすることができる。相当なスペースありますので、その辺もこの計画の中に入っていないんですけど、ぜひ計画をしていただきたいというふうに思っていますし、これも私個人ですけど、前にあった東食品の裏手に市の土地がありますよね、大きい土地が。今、茶屋ヶ原の抜けた土砂が山盛りになってますけど、あそこもいいですし、この前、伊藤 麗さんとも話したんですけど、木浦小学校でもいいんじゃないのみたいな話もしたこともあります。その辺も検討に入れて、進めていただければなというふうに思っております。

4点目の最優先事項ということで、マリンドリームの国道からの出入口、上りも下りもマリンドリームはもう大渋滞、夏になると。これはもう地元の住民も大変迷惑をしますし、あそこ、ただ寄るんじゃなくて通りすがりの、通るだけの人たちも渋滞に巻き込まれて大変迷惑をしております。これを解消するには、これには駐車場の図面が載ってますので、図面にあるように出入口を、国道からの出入口を増やす。また駐車場を増設するというををしていただければというふうに思うんですけど、駐車場の整備は、中期の6年後までにというふうに書かれているんですね。国道の出入口は10年後までにやると。これ短期が3年で、中期が4年から6年、後期が7年から8年ということで書かれていますが、これ、けつが書かれているんですけど、開始時期が書かれてないんですよ。例えば来年からやるんだとか再来年からやるんだとかということが書かれてないんで、そうになると、初めが遅ければ、けつが延びてくだけなんで、その辺の予定はあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

駐車場や国道の8号の出入口に関しましては、国土交通省や警察、また工事実施時期など、多方面にわたる調整が必要ではないかなというふうに思っております。今回の整備計画におきましては、委員の中にも国土交通省の8号の担当の方も参画いただきまして、様々なアイデアをいただいております。また、地元の警察のほうにも相談のほうは参っております。

つきましては、国道8号の出入口や関係する道路法線につきましては、引き続き関係機関と調整

を図るとともに、構内道路につきましても併せて検討を開始し、方針が決定次第、詳細設計に取り組んでまいりたいなと思っております。

じゃあいつするのかというお話ですが、検討は今進めておりますので、できる限り早急に、実施に向けて動きたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

市の答弁でできる限り早急にといいると、それこそまるっきりいつか分からない。そういう今までの状態ですよね。できれば早めに、国道の入り口だとやっぱり国交省との打合せが必要ですよね。それには時間かかるのは私も分かっていますが、中の駐車場の整備、それをすることによって、少しは渋滞緩和にはつながるのではないかなというふうに思いますし、もしマリンドリーム内の駐車場整備を行うことによって、車の渋滞がもしそんなに起きなくなったとしたら、出入口にもさほどお金もかけなくていいし、計画変更というのが出てくると思うんですね。だから、構内の駐車場の整備だけでも早く進めるということはできないんですか。補助金の具合もありますけどね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

整備計画では、他市の事例や現状を把握しまして、駐車場の台数を設定しております。根本的な問題は、やはり駐車場台数の不足ではなく、国道8号の渋滞、出入口の渋滞や、また構内道路、また駐車場の混雑は、車両がスムーズな動線をできてないというところがございますので、その点を見直しながら混雑解消を図ってまいりたいなというふうに思っております。また、早急にといいことでございますが、先ほどもお答えしたんですが、市だけではなくて、民間事業者や地元も関係することから、時間がかかりますことは、ちょっとご理解いただきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

課長はそのように申しますけど、私もあそこへ行くと大体駐車場に入れなくて、中で渋滞が始まる。そこから国道の渋滞につながっているというのは本当なんですよ。だから、どれだけでも、中の駐車場を増やすことによって、国道の渋滞緩和にもつながるんじゃないかな。

ただ、年間に夏場が特に多いんでね、そのために莫大もない駐車場ばかり造るわけにもいけませんよ。でもやっぱり計画的に、計画して駐車場あるんでね、それもよく考えていただきたいと思いますし、やはり少しでも前倒しして進めるということが大事だと思いますので、ぜひもう一回検討してみてください。

次に、18ページに書かれているんですけど、防災機能、災害時における避難場所としての広域防災拠点として、機能を図るというふうにこれの中には書かれているんです。これは大事なことなので、これももう早急にどんどん進めさせていただきたいと思いますが、その下のところに、津波避難のために周辺地域を含めた高台への避難誘導や誘導看板の設置について検討しますというふうに書かれています。これも、消防長、検討課題ではなくて早急にやらなきゃいけないんですよ。今現在、マリンドリーム周辺見ても、こういうものが一切ない。小さいのはちょっとありますけどね、ほとんど目につかないようなものばかりなんです。その辺の検討も、これ計画の中じゃなくて早急に進める必要があるんですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

中村議員おっしゃるとおり、やっぱり多くのお客様が集まる施設におきましては、誘導看板は大切だと思います。

そんな中でマリンドリームにつきましては、6月に実際に避難訓練をしていただきまして、避難場所となりますキャンプ場、またそこに通ずる避難経路をご確認いただいた後、誘導看板設置について検討してまいりました。

ただ、一から作る看板ですと価格も高いこともありますし、また時間もかかることから、一番すぐに行ける方法はということで検討した結果、施設内に駐車場案内の看板ですかね、縦が100センチの横が200センチ、これがもうちょっと色が冷めておりまして、塗り直したりする計画があるかと聞いたところ、もう塗り直しません、使ってもいいですよということで、ここに避難誘導のものを貼るといいますか、そんな形で避難誘導看板というのを今、計画といえますか検討を進めておるといったようなところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

消防長も分かるように、小泊地区として、避難道路と避難看板を何年か継続で要望してるんですよ。それは、小泊地区だけのためではなくて、マリンドリームの人たちが、津波のときに避難できるようにということで、一番小泊地区の東側にある道を上ることによって、高台の諏訪楫取神社に避難できるという、そういうのをお願いしてあるんですけど、いまだに検討だとか、それもあつたとかと言って全然進んでいないんですよ。これはやっぱりマリンドリームと一体になって進める必要があるというふうに私思うんですけど。

そこで、高野事務所長にちょっと伺いたいんですけど、このマリンドリームには、年間にどれぐらいの人間が来るのか、ちょっとお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

とても大きなエリアになりますので、集計方法等いろいろあるかと思いますが、基本的にはレジを通過した人を基本としますと、昨年度で47万人というふうに聞いております。

ただ、レジ通過されない方、また公園だけの利用の方もおられるかと思いますが、マリンドリームでは年間100万人という想定をしているものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

年間に100万人来るんですよ、あそこに。そのときに、特に夏場の混んでるときとは言いませんけど、土・日とかそういうときに、本当にF41の糸魚川沖の地震があったときに5分で津波が来る。そのときに避難道がないってこと自体がおかしいんですよ、これだけの施設を抱えて。今、消防長が言ったのは、一番東側から国道の上を渡ってキャンプ場へ行くという、その道1本なんですよ。そこへ逃げれるわけないでしょ、全員が。だから、やはりもう一本あるのが、小泊の一番東側のお宮さんへ逃げる道が1本だけ、あと何本かありますけど、それは横移動しないと上へ、高台へ逃げる避難道へ行き着かないんですよ。だから、少しでも近いところに、高台へ逃げる避難道の整備を、これは小泊地区だけの要望じゃないんですよ。マリンドリームのこの計画の中にもそういうふううたわれてますので、ぜひそういう計画は早めに進めていただきたい。いつ来るか分からないというふうに今言われてますけど。どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

小泊地区の避難路の要望も含めまして、検討して、実際に行ったもの、また行えなかったものといったところは、中村議員ご承知のとおりだと思います。やはり1月1日の能登半島地震を受けまして、今まではどちらかという、先かなとか、来るわけが、来るわけがないかなというところと語弊ありますけれども、そういったところが、もう来るものとして考えていかなければならないといったところで、また、東側につきましてはキャンプ場ですけども、西側のお客さんが、実際には小泊を通過して逃げる。また、小泊地区の避難も併せて、ちょっと検討といいますか、またご相談に乗っていただければなというふうに思いますので、よろしくお願いたします。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

市長にもお願いしときますけど、年間100万人来る施設を抱えてて、避難路が1本しかない。それは絶対おかしいですよ。やはり看板とともにやっぱり避難路をしっかりと整備する必要があると思いますので、市長も併せて検討していただきたいというふうに思っております。例えば国土交通省も、上越へ行く途中にでも、国道から高台へ、自転車道へ上がる道をもう既につけてるんですよ。荒崎の川の横にも1本つけていただきました。だから、ああいうことを、本来ならばトンネルの真ん中辺の石畳の、石段の辺から上の段に上がるような避難路を国土交通省にお願いしてつけてもらうことも可能かなというふうに思いますので、いろんな分野で大勢の人たちが避難できるそういう整備を、まず早急に進めていただきたいと思います。

それでは、次に、SEA TO SUMMITですが。

○議長（松尾徹郎君）

ここで、昼食事業のため暫時休憩いたします。  
失礼いたしました。再開を1時といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。  
中村議員。

○15番（中村 実君）

SEA TO SUMMITに入る前にちょっと言い忘れたとか思い出したんですけど、あの施設のトットコ岩のところにサザエファームをやってるんですよ。そのサザエファームは、これ市とは関係ないあれなんで入ってないと思うんですが、東京糸魚川会が一度来るぐらいで、年に二、三回しか利用されていません。もったいない事業なんで、これもできれば市が関わって、今後、子供たちのためにも利用していただければなというふうに思います。

次に、SEA TO SUMMITですが、先ほども市長答弁にもありましたけど、一巡したということで、一応また来年から、はっきりとはまだ決まってないようですが、継続していきたいというような雰囲気です。一番のその鍵を握っているのが新潟県だと思うんですよ。そういった中で、県の考えというのは、感触が分かればお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

調整役で実行委員長であります県のほうでは、今年度に3市が一巡したということで、参加者数や経費等の定量的なものの検証と、イベントにおける市民や参加者の上越地域への思いだとか印象

など、定性的なものをどう評価するか、検討を始めておるといふうに聞いております。いずれにしましても、糸魚川市としては、引き続き広域連携を図るイベントとして実施のほうをお願いしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひ県のほうにもお願いをしながら、予算も頂かなきゃならないと思いますし、ぜひ進めていただきたいというふうには私は思うんですけど、ただもう一点、能生と妙高は、それなりににぎわってると思うんですよね。でも、上越が、上越市がバイクで距離が長い。バイクで通り過ぎるだけで、ボランティアとか市の職員が、立って旗振りしているという、そんな状況なもんですから、上越市さんの考えというのは、もう嫌だなというような雰囲気はないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

私の聞くところによりますと、そのような、上越市からのお声のほうは聞こえてはきておりません。先ほどお答えしましたように、今後、県や3市で検証のほうが始まると思います。改めて県や上越市、また妙高市の担当等と話し合う機会もありますので、メリットやデメリット、また今後の意向については確認できるかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

これは最初から3市でやるということなんで、3市が関わるのが大事だと思います。ぜひ3市でやっていただきたいというふうには思っております。

3年間でカヤックとかそういうものが普及してきましたんで、そういうものも今後、続けていただきたいと思いますし、9月14日にマリンスポーツフェスティバル、これがあるんですけど、この辺も勉強して、市も関わる必要があると思うんですけど、今後いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

当市の恵まれた海岸を利用しましたマリニアクティビティと言われるものは、多種多様なものがあると思いますし、考えられます。イベント実施主体につきましても、私ら市や、また学校、また地域の方、また民間会社など、様々な団体の運営が考えられますことから、事業が仮に実施に当た

っては、調整や助成など、どのように、私らが関わるができるかというのを、関わってまた推進できるかというのを考えていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今まで海を生かしたアクティビティってあまりなかったと思うんで、今後やっぱり海を利用して、どんどんと年間を通してやれば、経済効果も生まれると思いますので、よろしく願いいたします。

以上で終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。〔13番 和泉克彦君登壇〕

○13番（和泉克彦君）

和泉克彦でございます。

私の一般質問に入る前に、このたびご逝去されました古川 昇さんに哀悼の意をささげます。

古川さんとは、市議としてはご一緒しませんでした。地元糸魚川の糸魚川シニアソフトボールクラブのチームメイトとしてお付き合いいただきました。チームでは主にキャッチャーをされていて、バッティング練習などで、私の後ろのほうから、バットのヘッドが下がってるよとか、今日はいいスイングだねというふうに、的確に、しかも優しく言葉を投げかけてくださる温かい方でした。

私にとっては、ソフトボールを通して、よきアドバイザーであったその古川さんの訃報に接し、大変ショックを受けております。同時に、私は魂は永遠だと思っておりますので、古川さんは、今後も糸魚川市及び市議会を見守ってくださることと思っております。

改めまして、ここに古川さんのご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の方々に心よりお悔やみ申し上げます。

それでは、発言通告書に基づきまして、1回目の質問をいたします。

1、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について。

新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に、感染症法上の5類に移行されました。コロナ禍では、感染対策のための行動制限などがなされましたが、移行後は、その感染対策は、マスクの着用なども含めて、基本的に個人の判断に委ねられています。5類移行後も続けられてきた治療薬の補助やワクチンの無料接種などの特殊な支援は、今年3月末で廃止され、今年度からは通常の医療体制での対応となっておりますが、この秋冬から新たな新型コロナワクチン接種についての報道がなされています。

そこで、以下、伺います。

(1) 昨秋開始の新型コロナワクチン接種の状況について。

① 当市での昨年秋以降のワクチン接種率について、全体と年代別で、それぞれどのように